

公表

事業所における自己評価総括表 児童発達支援

○事業所名	児童デイエがお大宮			
○保護者評価実施期間	2025年10月19日 ~ 2025年11月10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年12月15日 ~ 2025年12月24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月18日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	遠方へのお出かけや、四季を感じられるおやつ作りや工作など年間を通して多彩なイベント。	色々な経験が出来るよう買い物イベントやお出かけイベントを多く取り入れています。円滑にイベントが進行できるよう必要に応じて事前に関係機関に連絡などを入れています。	よりイベントの幅を増やすためバス移動なども検討中
2	3事業所の中で唯一、Instagramを活用し日々の支援を見える形で発信している	去年度は鍵付きアカウントとして運用していたが今年度からは誰でも気軽に閲覧できる形に変更し、事業所の雰囲気や支援内容がより伝わるように工夫している。また、不定期ではあるが、継続的な情報発信を意識し更新を行っている。	更新頻度の安定を図っていく
3	子ども一人一人のニーズに寄り添いながら、職員全員が統一した方針のもとで支援を行っている。	子ども一人一人ニーズを職員間で共有し、日々の申し送りや支援会議を通して支援方針の確認を行うことで、職員全体が共通認識を持って支援にあたっている。	引き続き情報共有の機会を大切にしながら支援内容や関わり方について定期的な振り返りを行い、より一貫性のある支援が提供できる体制づくりを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者参加型イベントの希望をいただいていたが、現在のところは実施には至っていない。	人員の不足や通常の支援とのバランスなどが主な要因	まずは、簡単なイベントや少人数制で開催など可能な形で少しずつ実現に向けて慎重に進めていきます。
2	児童の生活環境の整備	ロッカーが狭い、静養室が狭い、トイレが一つしかない、詰まりやすい、給湯器がついておらず児童が手洗いを嫌がるなど。	限られた今ある環境の中で安全面や衛生面に配慮し支援していく。改善が可能なものに関しては順次改善していく。
3	子どもの成長や変化に応じた教材、活動内容が十分に整っていない。	子ども一人一人の成長スピードや特性が異なり、既存の教材では難易度や内容が合わない場合がある。 発達段階の変化に応じて教材や活動内容を見直す機会が十分に確保できていない。	ボードゲームなど、複雑なルールのある遊び教材の導入を検討。